

**製品名: Dlx5 (19R2) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe10029**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.25mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:500-1:1000
分子量	32kDa

**抗原情報**

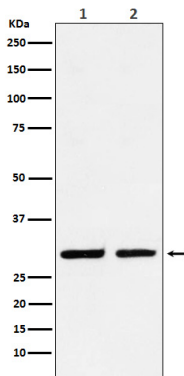
遺伝子名	DLX5
別名	Distal less homeo box 5; Dlx 5; Homeo box protein DLX 5;
遺伝子 ID	1749.0
SwissProt ID	P56178
免疫原	ヒト Dlx5 の合成ペプチド

**背景**

骨の発生に関与する転写因子。骨芽細胞の分化に必須な、BMP 応答性転写活性化因子として作用する。骨芽細胞の分化中に、RUNX2 非依存的に ALPL プロモーター活性を刺激する。骨芽細胞の分化中に、SP7 プロモーター活性を刺激する。骨の発生に関与する転写因子。骨芽細胞の分化に必須な、BMP 応答性転写活性化因子として作用する。骨芽細胞の分化中に、RUNX2 非依存的に ALPL プロモーター活性を刺激する。骨芽細胞の分化中に、SP7 プロモーター活性を刺激する。MYC プロモーター活性を上方制御することにより、細胞増殖を促進する。軟骨内骨格における軟骨形成と軟骨細胞肥大の両方の正の調節因子として関与する。ALPL および SP7 プロモーターのホメオドメイン応答エレメントに結合します。MYC プロモーターに結合します。DNA 結合には 5'-TAATTA-3'コンセンサス配列が必要です。

## 研究分野

## 画像データ



(1) HeLa 細胞溶解物、(2) RAW264.7 細胞溶解物における Dlx5 発現のウエスタンブロット解析。